令和８年度研究推進計画

１　研究主題

主体的に学び続ける子どもの育成
～「自立した学び」と「協働的な学習」を往還できる学習環境の設定を通して～

２　研究主題設定の理由

本校では、令和２年度から「個別最適な学び」実証研究事業の取組が始まり、イエナプラン教育の理念を取り入れ、学校生活の教育活動を通じて主体的に学ぶ児童の育成に努めてきている。算数科を中心に単元内自由進度学習を実施し、自己調整力を育むことを重点に学習を進めてきた。昨年度当初に、「学習計画表」「学習環境」「個への支援」の３点を重点として取り組むこととした。それぞれの学年の実態に応じた「学習計画表」を作成したり、児童がスモールステップでじっくり学ぶことができるよう「学習環境」を整えたりするなど、創意工夫をしながら取り組んできた。この取組を通して、前期と後期の２回実施した ScTN 質問紙調査（正式名称：主体的・対話的で深い学びのための意識・実態調査質問紙）では、「授業では学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる。」の項目の結果は上昇しており、「自立して学ぶ力」がついてきていると考えらえる。鹿児島国際大学住田裕子教授の自己調整に関わる質問紙調査においても、「計画や見通しをもって学習を進める」「目標に向け自分で学習を進める」といった項目は令和６年度より上昇していた。また、昨年度江田島市が実施した学力調査の結果においては、校内平均が全教科全国平均及び江田島市平均を上回った学年は、５学年中４学年で、４年生のみ国語科が下回る結果となった。おおむね児童に基礎的な学力が身に付いていると考えられる。

３年生以上で実施した異学年集団によるワールドオリエンテーション（総合的な学習の時間）では、学年の枠を超えて児童同士が学んだり関わったりしながら、地域資源について学ぶ学習をしてきた。児童の振り返りや教師の見取りからも地域資源についての理解が高まっただけでなく、主体的に学ぶ姿勢や問題解決に向けて、他者と関わりながら学ぶ児童の育成につながったといえる。

しかし、ScTN 質問紙調査の「他の人と一緒に学ぶとき、自分の得意を生かしたり、苦手を補ってもらったりしながら学習を進めることができる」の項目、自己調整に関わる質問紙調査の「友達と励まし合って学習を進める」、「互いの様子を確かめ合って進める」の項目は年間通して上昇が見られなかった。これは、昨年度「自立して学ぶ」ことに特化した単元内自由進度学習を重点に置いて学習を進めてきたことから、個々のペースで学ぶ側面が強調され、友達と関わりながら学ぶ側面が不足していたことだと考える。また、三高小学校は、集団構成の変化がほとんど見られない環境にあるため、人間関係が固定化しやすく、互いが関わり合って学んでよかったと思える成功体験が少ない、他者と関わる必然性を感じていないといった実態がある。今年度から通常学級は、全て複式学級になるため、次なるステップとして、自立して学ぶ経験だけでなく、他者との関わりの中で「分かった！できた！」という成功体験も最大化させ、学力をつける必要があると考える。

これらのことを踏まえ、今年度は、研究主題を「主体的に学び続ける子どもの育成」とし、サブテーマを「『自立した学び』と『協働的な学習』の往還を通して」として、「自立して学ぶ力」を身に付けるための「単元内自由進度学習」と他者と協働して学ぶ「協働的な学習」双方バランスを取りながら、児童の自己効力感を高めていきたい。

３　研究仮説

「自立した学び」と「協働的な学習」を往還させた学習を展開すれば、自己調整力を身に付け、主体的に学び続ける児童を育成することができるであろう。

・「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり（単元内自由進度学習による自分ペースで学ぶ学習）
・他者と関わりながら、自分達で学びをつくる授業づくり
（複式学級の特性を生かした、対話ベースの学習）

４　研究の基本的な考え方（三高小の児童につけたい学力についての考え方）

文部科学省での定義をもとに、本校では学力と学ぶ力を以下のように考えることとする。

学力

★何を理解して、何ができるか、繰り返し学習して身に付けた知識及び技能
★理解していることを、どう使うか、どう解決させようとしているか、伝え、考える力

学ぶ力

★学ぶ意欲、興味関心、問題意識がある
★今、自分が何を学ぶかが分かる
★どのように学んだらよいか分かる
★そのためにかかる時間やすることを見積もれる
★いろいろな学び方のうち、どれが適切か選択できる

５　研究内容

（１）「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり

・　学習の見通しをもって取り組めるインストラクションと、個に応じた学習内容・方法の選択
※　児童が学習目標や評価基準を理解し、何をどのように学ぶかを自ら選べるようにすることで、主体的に学習に取り組む力を育てる。
・　学習計画表を活用した進め方と、振り返りを通じた自己調整力の育成
※　児童が自分の学習の進度や内容を見通して進め、振り返りによって学習の質を高め、次につなげる力を養う。

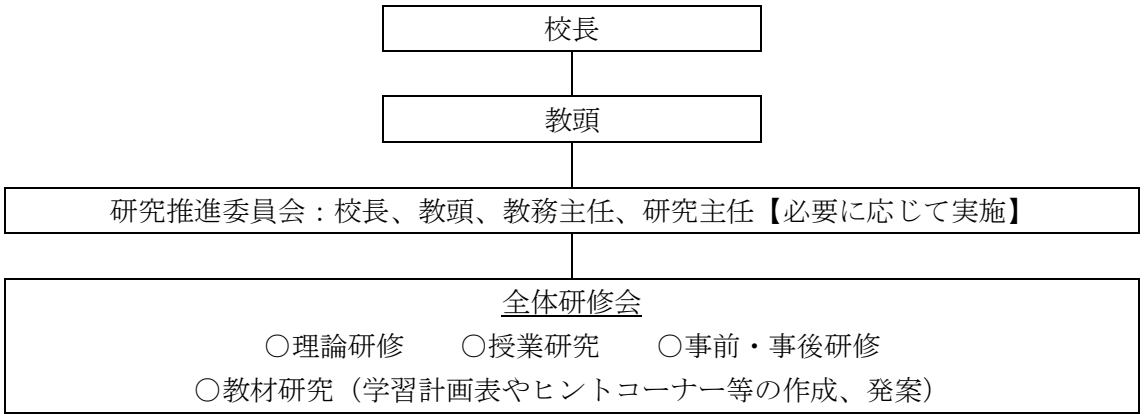
（２）他者と関わり、自分達で学びをつくる授業づくり

・　複式学級の特性を生かした、対話ベースによる学習
※　児童が関わり合って、自分達で学習を進める力や他者とともに問題解決しようとする力を育てる。
※　総合的な学習の時間で、地域をテーマとした体験的な課題に取り組み、他者と関わりながら探究的に学び、問題解決に向けて考える力を育てる。

６　検証計画

（１）**検証方法**　学びの姿を多面的に捉える	（２）**検証の指標**　目指す姿の達成度を測る
１　ScTN 質問紙調査	◎　質問５、１８、３２における肯定的回答が 80%以上
２　児童の学習の様子、ノート、ワークシート、振り返り ※　学習の様子を写真に撮って保管しておく。 ※　学習計画表は、ノートに貼ったりファイルにまとめたりして保管しておく。	◎　振り返りやノート（ワークシート）に、自己調整の様子が見られる記述が１回以上できている。または、他者との関わりによる解決ついての記述が１回以上みられる。
３　江田島市学力調査	○　全国平均と同等またはそれ以上の正答率

７　研究組織図



８　校内研修経過

月	日	研修形式	内容	講師招聘
4	1	○全体研修	・学校研究主題、研究推進計画について	
4		○全体研修	・理論研修（今年度の方向性について） ・ScTN 質問紙受検について（動画視聴）	
5		○全体研修	・自己調整に関わる質問紙調査について	鹿児島国際大学 住田　裕子教授
6		○全体研修	○教育センターによる専門講座受講 ・へき地、小規模校教育	教育センター 指導主事
7			・ScTN 質問紙調査（１回目） ・自己調整に関わる質問紙調査（前期）実施	
8		○プレ研修	○教材研究１ ・学習指導案や学習計画表の検討をする。 ・児童の「つまずき」や「学びの広がり」を想定する。 ・教材やヒントカード等を考える。	
9		○授業研究・協議会	○研究授業①【第５・６学年】 ○協議会	
11	19	○授業研究・協議会	○特別支援学級（知的）授業参観 ・巡回相談（第２回）と兼ねて実施。	

月	日	研修形式	内容	講師招聘
12		○プレ研修	○教材研究２ ・学習指導案や学習計画表の検討をする。 ・児童の「つまずき」や「学びの広がり」を想定する。 ・教材やヒントカード等を考える。	
1			・ScTN 質問紙調査（２回目） ・自己調整に関わる質問紙調査（後期）実施	
1		○授業研究・協議会	○研究授業②【第３・４学年】 ○協議会	
2		○全体研修	・江田島市学力調査結果の分析	
2		○全体研修	自己調整に関わる質問紙分析	鹿児島国際大学 住田　裕子　教授
3		○全体研修	・年間のまとめ 今年度の研究推進の成果と課題	

9　研究構想図

学校教育目標

自ら学び、ともに伸びる子どもの育成
～『み』んな・『た』のしく・『か』っこいい』学校～

【育てたい資質・能力】

主体性	自己効力感	共感力	表現力
自ら考え、学ぶ力 自己調整力	目標達成のための能力をもっていると認識する	他者を認め、協働する	伝えたい思いをもち自分らしく表現する

研究主題

主体的に学び続ける子どもの育成

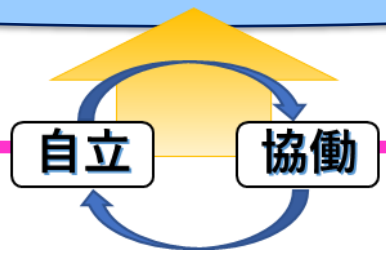
～「自立した学び」と「協働的な学習」を往還できる学習環境の設定を通して～

【研究仮説】

「自立した学び」と「協働的な学習」を往還させた学習を展開すれば、自己調整力を身に付け、主体的に学び続ける児童を育成することができるであろう。

・「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり（単元内自由進度学習による自分ペースで学ぶ学習）
・ 他者と関わり、解決に向かう集団づくり（複式学級の特性を生かした、対話による学習）

主体的に学び続ける児童



「自立」した学び
（単元内自由進度学習による自分ペースで学ぶ学習）

「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり
〇学習の見通しをもって取り組めるインストラクションと、個に応じた学習内容・方法の選択
〇学習計画表を活用した進め方と、振り返りを通じた自己調整力の育成

協働的な学習（複式学級の特性を生かした学習）

他者と関わり、解決に向かう集団づくり
〇児童が関わり合って、自分達で学習を進める力、他者とともに問題解決しようとする力の育成
〇総合的な学習の時間で、地域をテーマとした体験的な課題に取り組み、他者と関わりながら探究的に学び、問題解決に向けて考える力の育成